

会長就任あいさつ

ただいま会長職をご承認いただきました森です。

先ずは、塩坂会長、望月副会長、長年お疲れ様でした。平成 23 年 9 月に新生「古谿荘に親しむ会」の発足以来 10 年に渡り要職を務め、会の発展にご尽力いただきました。本当にありがとうございます。

今後は顧問として、ご指導ご協力をまだまだお願いします。

また、若月さん、柚木さんも会の発足以来 33 年に渡り、ご尽力をいただきました。今後は、体調の許す範囲で、ご協力をお願いしたいと思います。

さて、今から 34 年前の昭和 62 年 3 月 28 日、この多目的室で望月勅彦さん、渡辺英樹さんを含む 8 人が発起人となって、「古谿荘」の歴史的、文化的価値を検証する会を創ろうと呼びかけたのが始まりでした。その後 11 月 21 日に入会希望した 58 人により設立総会が開催され、本会がスタートしました。以来、私は事務局長を務めさせていただいてまいりました。あらためて、平成 2 年当時の会員名簿を見たところ、110 名まで増えておりました。ただ、現在の会員の途中で、当時から参加されている方は 11 名だけということが分かりました。

そこで少し過去のことを振り返ってみたいと思います。

設立当初、所有者である財団法人野間奉公会様（現在の一般財団法人野間文化財団ですが）との交渉から活動を開始しました。大学の先生方が次々と調査研究を申し出て下さいました。建築では、既に故人となってしまいましたが、宮廷建築が専門の豊橋技術科学大学、小野木重勝教授、明治建築大御所の村松貞次郎東京大学名誉教授、植治こと小川治兵衛の研究者、京都芸術短期大学造園学科、武井二郎教授ほか多くの先生方の調査により、古谿荘の評価がどんどん上がっていきました。

財団も少しずつ門を開いていただき、庭園特別公開が始まり、さらには文化庁、静岡県、旧富士川町のご努力により、平成 17 年 12 月に文化財に指定されました。本会の地道な活動が、国指定重要文化財という評価に結びついたと言えるのではないのでしょうか。

いよいよ、今年度より古谿荘保存活用計画に基づき、建物の保存修復事業が始まると聞いております。10 年後には大きく門戸が開かれるかもしれません。

本会も、古谿荘及び田中光顕伯爵の研究をさらに深めていくと同時に、岩淵地域の文化、旧東海道の変遷なども調査対象に加え、地域文化の発展に寄与していきたいと考えております。

そのためにも、会員相互の連携を強めるだけでなく、地域の皆様との交流も広めていきたいと思っています。

よろしくご協力をお願い申し上げて、会長就任のあいさつといたします。